

【めむろ未来ミーティング】

令和元年7月11日(木)

10:00～12:05

子育てネットワークげんき

■参加者 14人

■芽室町 町長、子育て支援課長、課長補佐、

■記録 矢野

- 1 開会
- 2 町長挨拶
- 3 質問事項の回答
- 4 意見交換

■対応等必要事項

①子どもの保険加入の件（子育て支援課）

②少年団休日の件（社会教育課）

（議題1）子育てサークルの支援

【意見】

子育てサークルの支援について。昨年度、子育てサークルが2つ無くなってしまった。また、ミニバレーサークルや発達支援センターの親の会等、親が運営母体のサークルもいくつか消滅しており、やはりこうしたことに関しては皆さんショックを受けています。子どもが生まれて、幼稚園や保育所に入る前の一步の人間関係作りの場がこうしてどんどん無くなってしまうことには危機感を覚える。

子育て支援課主体で、そういった場が枠として出来れば、そこに集う人もまた出てくるのではと思う。勿論、子育て支援課のほうでも現在色々と検討中だと思うが、そのことについては今日是非町長とも話をしたいと思っている。

【意見】

私は芽室町に越してきて、それこそ3歳児健診くらいの時に育児クラブに加入したが、その時は、まさに子供の多い時期だったので、30名程が親子で参加しており、とても賑やかな育児クラブだった。本当に色々なことを出来る人たちが集まっていて、今では考えられないことだが、許可を取って落ち葉を集めて焼き芋をやってみたりなど、各担当班が決まっていて、1年を通して子どもたちとそういった自由な遊びをやっていくのだが、やる方も皆で協力し合って楽しいし、参加する方も色々なイベントがあって楽しく、2年間在籍していたが、本当に楽しいひと時だった。

私は主催する側の一員だったが、そこで経験したことはその後のPTA活動、現在育児ネットの会長をやっているが、そうしたことにも確かに繋がっていると感じる。

芽室町に来て、20年程の月日の中で色々な人に出会えたことが現在色々なことを続けていける力になっていることを強く感じているので、今の若いお母さん方や町に引越して来た方も、ぜひ待っているだけではなく自分から交友関係を広げていってもらえたならと思っている。

やはり誰かと繋がっていると色々なことが出来るので、少しでもこうした交流が出来るように皆でバックアップしていくことが必要ではないかなと思っている。

【意見】

プレイセンターという、あえてお母さんたちに自主運営をしてもらうという趣旨の事業を今やっている、今のお母さんたちにこうした活動は受け入れられないのではという意見も頂くが、しかし、私は、お母さん方に少しずつでも小さなことから役割を持たせて、段々地域や町づくり等にも興味を持って頂きたいと考えている。

帶広でこのような活動をしているのだが、芽室町でもこうしたお母さん方はいらっしゃると思うので、お母さん方の育児力や役割を持つ機会を奪うのではなく、「育てる・伸ばす」視点で関わりながら、こうした機会を支援するというのは今後の町の未来のた

めにも必要なことだと強く感じている。

勿論、経済的に色々なサポートがつくことは子育て世帯からは非常にありがたいことだとは思うが、あまりにサービス化し過ぎて、お母さん方が様々な体験・成長をする機会が無くしてしまうのではなく、そうした機会が持てる町になるといいなと思っている。

【町長】

子育て分野だけに限らないと思っているが、私もこれから人口が減って行く中で、地域のつながりといったものが大切になってくると深く感じている。その中で、お母さん方のネットワークはその1つであると思っており、昔のような「向こう三軒両隣」のような感覚をもう一度何とか復活させないと、行政自体の出来る幅や範囲も制限があるため、今後は人づくりや地域の繋がりを大事にしたいと思う。

しかし、かつては、今のようにSNSが発達していなかったため、結局会って色々お話をしたりしてネットワークを作っていたが、今の人達は、LINE等のSNSで簡単にやり取りができるため、ニーズとして、集まって行動するのが、本人たちは果たして必要と思っているかということもチェックする必要があるとも感じる。

このお題としては、「行政側としてサークルを設置したらどうか」ということだが、これはアイディアとしては、無しではないと思っている。

だが、繰り返しにはなるが、今の若いお母さん方のニーズ、要望のようなものがどういう所なのかということを把握することも大切。

しかし、行政として一つ継続するものを作るべきだという考え方もあると思うので、効果も含めて要望が強くあるのであれば、そうしたやり方も考える。ただ、民間の活動をされている皆さんのお力をしっかりサポートするというのも行政の役割であって、そこを上手く見極めていく必要があると思っている。近年は「個」の時代になってきている傾向にある。例えば、農業の関係では農家にお嫁さんが来ない。昔は合コンのような形で、集団で集まってどんどん繋がって行きませんか、という方法でやっていたの

だが、その手法だと今ではもう人が来ない状態。そうではなく、個別の方々に対して、「この人はこういうアプローチ」とやっていかないと、上手くいかない時代になってきている。のことと、皆さんの課題とを一緒にするつもりは決してないが、しかし、行政としては、そうした個別の悩みにしっかりと答えられる体制を作ることが、私は今の時代では必要だと思っている。もちろん、サークル団体活動も必要だということは分かっている。

つまり、選択肢が色々あるような状況にしないと、若い世代がサークル等に対して中々食いついてはくれないのではないかなど感じている。きつい言い方かも知れないが、是非反論があれば言って頂きたいし、皆さんのこうした現場の意見も含めて、どんどん頂いた上で、町行政としてどういうスタンスでやっていくのかを決めていく。それが時代に合った流れなのではないかと思っている。

担当部署ではニーズ調査はしているが、団体を作ってどんどんやって行きましょうという声は、正直なところあまり無いというのが今の実態である。

【意見】

今、ニーズ調査をされているとのお話が出たが、それに関して詳しくお聞きしたい。

【子育て支援課長】

私の方から説明させて頂く。

今年度、町は子育て支援事業計画を策定する年となっている。そのため、今年の1月に就学前のお子さんを持つ保護者の方々にアンケート調査を行った。現在非常に子どもの数が減少しており、平成20年に子どもの生まれた数が200人、平成30年度は100人を切ってしまった。

今回のアンケートでは就学前のお子さんの世帯が681世帯、こちらの方に配布した所、回収率が約52%ということで、半数以上の回答を頂いている。その中で、求められている声を見ると、先程町長も仰ったように、団体だとかサークルという要望は残念ながら無く、逆に、個々に対するサポートの要望が多くかった。

例えば医療費支援や保育に対する要望。あとは育児サポートに関して。例を挙げれば、子どもに何かあった際に頼れる親がないだとか、子どもの送迎等の時間が中々取れず習い事をさせてやれないといった悩みをサポートして欲しい、というような声があった。これらの声を踏まえながら、今年度町としてどういったことを取り組んでいくかの計画を立てたいと思っている。

【意見】

ありがとうございます。選択肢というお話もあつたが、若いお母さん世代がイメージ出来ないというもの一つあるのかなとは思った。

やはり、町長の仰ったような個々の時代ということで考えると、ちょっとそうしたこともあるのかな、と感じた。

【意見】

今の話を聞いていて、ニーズというのがそういう形で出てくることは、確かにそうだと思う。

ただ、私たちが子育てサークルで何かやろうと言ったらワーッと行けた時代と違って、お母さん方も子育ての仕方が変わって来て、昔は群れる空気というか参加しやすい雰囲気があったが、今のお母さんたちはそうではない。子育てサークルが無くなっている支援センターができて、支援センターに来れば、専門家がいる形で受け入れを始めるという流れ。結果やはり段々お母さん方の子育て力が落ちてきているということは、「繋がる力」を奪っているということだと思う。

支援センターに行ってもどうしてもその場限りというか、お母さん同士の繋がりが出来ない。結果、やはり子育てが難しい、どんどん辛いと感じるようになっていっている。また、子育てだけに限らず、時代と共に人の意識がやっぱり変わってきたているのを感じる。具体的に言うと、今の若い方々は上の世代と違って、困っている、難しい、助けて欲しいというのを発信しづらい、言えないお母さん方が増えていると感じる。自分で何とかしなければ、と頼らず頑張ってしまうことによって、地域の繋がりも増

えていかないというか、やはり「個」で生きていくという形になってしまっている。繋がる力が弱いために、ニーズとして大勢の人と何かするには抵抗がある、行きたくないと感じてしまうものもあると思う。しかし、やはり子育てに対して学びたい欲求というのは確実にあると思うので、そこをどう解決していくかが重要。

本日はそれともう一つ、お伝えしたいことがある。私は活動を通じて管内の色々な町の子育て事情を見る立場であるが、芽室のように、こんな風に住民が主になって活動ができる所は管内にはない。帯広市でも無い。それだけ顔の見えるコミュニケーション、心が通じ合うネットワークがあるというのはすごいことで、先程町としてすべて出来る訳ではないということを言われたが、やはり町も、ここ以外にも芽室には子育てで繋がっている方は沢山いらっしゃると思うが、その力を信じてやはり一緒にやっていく、協働するということをもっともっと取り入れて頂きたいなと思っている。

【意見】

長いこと芽室の子育て環境を見てきて、変化してきているなど実感するのは、私たちの時代は話し合い等、色々な場に子どもを連れて出かけていたが、今では子どもを預けないと仕事が出来ないということ。育児ネット等、こうした機関が出来たからというのもあるが、やはり会議や作業も、子どもがいるとやり辛いだとか、集中して出来ないというのが出て来て、気が付けば、育児クラブが無くなって、中心となって何か計画を立てて行く、自分たちで決めて運営していくという人が減ったなというのを感じる。

【意見】

地域のつながりだけでなく、行政のほうからもそこに働きかけをして頂くことで選択肢も増えるのではないか。

【町長】

誤解がないように説明するが、サークル活動など

を否定している訳ではない。個別に対応しなければならないニーズというのも実際にあるため、先程から言っているように、選択肢を広げることは必要であると感じる。

もう一つは、サークルの主体が行政で最終的にやっても良いのかも知れないが、協働、一緒に皆でやれること、そういう手法をお互いに考えていきましょうということが私は大事だと思っている。

こうした機会も含めて、今のように色々と話や意見を出して頂いて、じゃあ具体的にどのようにしていったら良いか、という話し合いは必要と思う。基本姿勢としては、皆さんのがやっていることだからうちは関係無いだとかいう気持ちは全く無く、むしろ逆に、お手伝いだと支援をさせて頂く、あるいは主体的に動くことって、行政として何がありますかということを一緒に考えてやっていきたいという思いの方が私としては強く、それがソフトの充実に繋がっていくと思う。

【意見】

(催しなどに) 参加はしたのだけどお手伝いはないだとか、そういった考え方の人が増えてきているのを感じる。なので、もっと若い子育て世代に、低い年齢の時から、皆でやることの大切さを知って頂くことに努めなければならないのではないか。

【意見】

親の繋がる力をテーマにした話し合いというのは、やはり場所を決めるというか、定点的に話ができるほう、今後のことを考える時には大事なのかもしれないということは感じる。

【意見】

個々のサポートという点に関連してだが、今は少年団活動というものがすごく盛んになってきているを感じる。

しかし、一方でこうした地域の繋がりというのはまたちょっと多様で、種類が違うのかなと感じる。どちらが良いというわけではないが、現在はバランスとして少年団を選ぶという人が増えているのを感じる。

じる。

(議題2) 子どもの課外活動

【意見】

現在、町内では少年団活動が低年齢化しており、その結果子ども会活動に参加できない子どもが増えている。このことについて、ご意見のある方は伺いたい。

【意見】

少年団活動というのは、固定のコミュニティ、つまり決まったメンバーでの繋がりなので、勿論そこでは縦関係や親同士の繋がりなんかもあって切磋琢磨していく関係は生まれるが、一方で、多種多様な、地域の異世代の関係性を作る機会、先程述べた「繋がる力」を試されるような機会はかなり減ってしまっているのを実感する。今日は、そこの所の課題を共有できたらと思っている。

もし少年団活動が増えているかどうか等のデータがあれば、先にそこの所をお聞きしたい。

【町長】

子どもの人数自体はかなり減ってきているが、割合からすると少年団活動率は上がってきている。ざっくり言うと、児童数が明らかに少なくなっているが、少年団の人数は10年前と変わっていない。団の数も、26年までが20、今が19あり、割合からいくとやはり上昇しているという形になる。

【意見】

この課題の焦点は少年団活動と地域の繋がりというものは両立するかという点。やはり少年団は土日の試合等もあり地域のイベントへの参加者がいないなどの実態はある。

【意見】

少年団活動は、どちらかと言うと勝負にこだわってしまう。また、少年団に入ってくる人たちが低年齢しているので、今まででは3年生からだったのが1・2年から入団したり、その辺りの奪い合いが今起き

ている。もう少し体を使って色々な遊びをさせたいということで遊ぼう会をやっている。

少年団とどっちが良いかと言われると、どちらも良い所も悪い所もあるのでそれを聞かれると私としても困ってしまう。少年団は、マネージャーも含めたチームプレイ、チームでの繋がりをサポートできる、作っていけるような指導者がいれば良いのではないかと案じる。

遊ぼう会に関しては、子どもとのコミュニケーションができる。ここにいる皆さんも、子どもの名前や年齢を全員知っていたり、すごいなといつも感じるが、それが地域の繋がりにどんどんつながって行くのではと思っている。だから、こうしたサークルがもっと色々な形で増えていって、色々な形で子ども達と関わってくれれば、もっと良い茅室町になるのではないかと感じた。

ただ、ここで課題になるのが怪我に関する保険の問題で、ボランティアでやっているので保険のお金を毎回子どもから貰うことはできないし、とは言え全て自腹でというのはさすがに厳しい。なので、こうした所を町としてバックアップして頂けないかなと思っている①。

色々なことをやりたい、サークルを作りたいと思う人がいたとき、どうしてもこうした保険の関係等がネックになって躊躇してしまうことはあると思う。後は場所がないという問題等、町に行って相談すれば、「こういうスポーツであればこの場所が提供できる」とアドバイスが頂けたり、保険のことでも、「町がこういう風にバックアップできる」と言って頂ければ、もっともっと子どもと繋がれる場も増えていくと私は考えている。

【意見】

スポーツ論のようなものはちょっと難しくてあまりよく分からぬが、この間、町内会を活性化しようと活動している方と話す機会があった。

町内会に参加させたいと思っても、少年団で忙しくて中々出来ない、ということを私が伝えると、「実態はそうなのか」と驚かれていた。そこは、やはり町全体として、町内会も必要、スポーツも必要とい

う所で、バランスを取って頂くことが不可欠だと感じた。

【意見】

小学生の子どもがいて少年団に入っている。ビッグシリ少年団活動があって中々遊べないということがあったりして、小学生のうちからこのような状況で大丈夫かなど心配があり、そのバランスも大事かなと感じている。

【意見】

方法としては、この曜日は全少年団が休みを設けることで、子どもたちが気兼ねなく一緒に遊べるのはどうか。具体的な統一ルールがあると良いと思う②。

【町長】

イメージとしては、少年団はこの日は休みにするから、この日に皆で集まって何かやりましょうとか、そういうことになるのか、イメージとしては。

【意見】

そのとおり。この日は遊びたいのに休みがないな、というのは子どもなのに可哀想だなと感じる。

【町長】

町内会の活性化で、市街地町内会連合会とも話しているのは、ファミリー層。子どもを含めた入会というのをして頂きたいとなるが、やはり少年団との引っ越し張り合いになるということで、そこはちょっと悩ましいなと感じている。

町内会と話す時は、子どもを含めたファミリーを何とか取り込みたいという話になるが、では少年団はというと、こちらも強化が必要であるから、その辺りを町としてある程度コントロールするという手はありなのかも知れない。

しかし、(時間の)空いている隙間にどんどん入れてしまうと、今現在でさえ忙しい子どもがさらに忙しくなってしまうので難しい所もあるが、子どもの休める日というのを作るのも良いアイデアだと思

うし、そこに例えれば町内会の活動を合わせてみると
いうのもありかなと思う。

口で言るのは簡単だが、この問題は中々難しく、
町内会の中でも温度差があるのも事実。そのためすべてを統一するのは無理だと思うが、それでも前向きにやってくれる所は町もどんどん支援していこう
と思っている。

【意見】

私自身も参加するが、育児ネットのもちつきだとか、わくわく広場のそうめんは、多世代で大人も子どもも楽しんでいて、皆それぞれの役割を持つというのが自然と出来るので、そうしたシーンというのが色々な所できたらよいのかなと思っている。

【意見】

まとめると、「バランスを取っていく」という所でイメージが共有できそうに感じる。

【町長】

今度はやはり、少年団側の方々とも話していくかな
くてはならないと思っている。

【意見】

気になったのだが、子ども会活動のある町内会とい
うのは現在どのくらいあるのか。うちの町内会には一応あって、夏祭りで子ども達とゲームをやったり、高校生がお手伝いに来てくれたりしている。
去年、他の町内会で、流しそうめんで世代間のとても良い交流が出来たとの話を聞き、ではうちの町内会でもやろう、ということになり、そうめん台の貸し出しもしている。こうした情報提供、「こういうのを町内会でやったら楽しいですよ」というような、もちつき機や流しそうめんセットを貸し出せるような情報提供をすることによって、各町内会さんも、「じゃあうちもやってみようかな」と思ってくれるのではないか。

【意見】

私が感じたことは児童館や学校は子ども達が自由

に、というよりはある程度の制約があるが、わくわく広場というのは、規制があまりなく、自由に子ども達と縦割りの関係で大人も入って遊べる。

こうした場というのはあまりなく貴重であるから、皆がもっと参加できる、若いお母さん方もスタッフ等の形で参加しやすくなるようになれば良いと思う。また、町のイベントにしても、ネットワークにしても、PRというか、発信力がどうにも皆に伝わり切つていない印象を受けるので、そこをもう少し、皆に浸透するような伝わればいいと思う。

(議題3) 声を事業に反映

【意見】

繋がる力や地域の活動のバランスというのが出て
きたが、それを継続的に、例えば子育て支援課の事
業に反映していく場という、確固たるイメージとい
うのが欲しいと思う。

内容は2つかれていて、1つが、子育て支援課
だけでなく社会教育や学校教育にまたがる事業（人
形劇の公演など）、こうしたようなイベントをする時
も、情報共有を3つの課で連携をとつてもらえると
色々と問題解決などがスムーズに進むということ。

人形劇公演鑑賞会をするにあたって、同じことを
子育て支援課にも言うし、学校教育課にももう一度
言うし、ここでもあそこでも言う、という手間があ
って、難しいとは思うが、地域の団体としては、一
回の窓口で済めば非常にありがたいと感じた。

【意見】

人形劇は社会教育の事業としてやっており、ずっと
実行委員会ということでやっているので、その中
で、子育て関係の団体で組んでやりましょうとい
う形でやっているので、その中には支援センターの方
にも入って頂いたりもしている。

その年その年で、皆がこれを見たいということにな
れば、やり方を皆で相談して進めることになるが、
その時に子育て支援課にも補助のお願いしたとい
う経過がいつかあったが、それだけは謹んで欲しいと
いうようなことを言われた。やはり私たちからした

ら子どもに関するお金なので、ぜひそういう形で使いたいという風に思って相談したのだが、次年度からはそういうことは絶対ないようにと注意されたことがあった。

【町長】

両方町からの補助だったら、町が直接お金を出すという部分では今仰る通りだが、条件のある場合がある、基本的に国や道から補助の来る場合は、その補助を貰ったら違う所から補助を貰っては駄目だというのが要領に書いてある場合がある。

仰りたいのは、子どものためにやっているのだから、お金や窓口も含めて一本化で整備したいということだと思うが。

【意見】

最近はチケット料が 800 円程度だが、500 円から始まって、安い参加費で参加できるということで楽しみに待っていて多くの方が来ている。やはりこれは町民の力であり、実行委員会として色々な団体が入っているので、そこでまた構成員の方々にチケットを売ってくれるという所でそういう結果になっていくのかなと思うし、毎年実施することに意味を感じている。

【意見】

あとは、芽室町のほうが町からの助成があるということで料金がぐっと安くになっているので、帶広からより多くの人達に見て頂けるのはありがたいので、この先も是非よろしくお願ひしたい。

【町長】

私の公約の中で、「一流を見て・聞いて・学ぶ」というのをやっているが、スポーツだけでなくこうした文化・教育も見て貰って、そうした意味では、非常に重点的なものだと思っているので、是非続けて行って頂きたいし、そこは社会教育課がやっているということで、一本化というのであればそちらははもしかしたら社教のほうが良いのかもしれない。

来年年末に庁舎ができる、再来年の正月あたりに

入る形になり、職員自体は教育委員会も含めて全部一つの所になる。子育て支援センターは、そうした意味では離れてしまうということになるが、まだ詳しくは決定ではないので、最終決定次第お知らせさせて頂く。

【意見】

それに関しては、離れた所にポツンと育児ネットがあるのはどうだろうということで皆すごく心配していたので、子育てに関するそういう広場のようなものがあれば違ってくると思う。

【町長】

あいあい全体としてどういう風にしていくかをもう一度考える必要があり、皆さんからもご意見も頂けたらうれしい。

庁舎の中に入るというのは、職員だけである程度いっぱいになってしまふということで、現実的には不可能である。

【意見】

そうした時は、なるべく早く情報提供をお願いしたい。

【町長】

そのつもり。

【意見】

私は、会長になってからは子育て支援課に相談して助言を頂いているが、以前、紙ひこうきの先生が来てくれることになった際、町の体育館は各種大会で土日は一杯ということで、健康プラザや各学校の体育館を使わせて頂けないか探したが中々OK が出ず、やっと西中で貸して頂ける、ということになった。それで、行けるかと思ったが、どうしてやるのか等細かい説明が必要とのことで、子育て支援課以外に、学校教育の方に出向いてお話をしたという経験がある。

その後、報告書も学校教育の方にも出して、ということで済ませたのだが、その時に、「支援課の方に

OKが取れたので、学校教育には私たちはもう一度同じことをしないで済むシステムであつたら楽だったな」と強く感じた。自分たちで何度も電話したり出向いたりして、何度も同じ説明をするのはやはり少し負担。

【意見】

確かに、仰る通り、地域でこういう活動をしたい、場所を探している、という際に、ここに相談してくれれば出来ますよ、というような窓口があればもしかしたら活動も促進されるのかと感じる。

【町長】

オールフリーで何でも施設を使えるような仕組みは、施設そのものの目的のこともあるので厳しい。職員側が連携して、例えば一度子育て支援課で受けた案件に関しては、教育委員会とのやり取りはこちらから説明する等、活動する側の手間を省くという方法であれば現実的かも知れない。それぞれのセクションではやはり責任もあるので、職員もしっかりと詳細を聞いて、何かあった時に対応できるようにしておきたいというのは理解できる。

【意見】

住民からすると、行政に色々とお願いしたいことや施設を使いたいとなった時に、どこに相談したら良いのか。行政に勤めた経験が無いもので全く分からぬ。

相談に行った時には「もう予算が終わってしまっているので…」と言われてしまったりして、行政がどういう風に動いているのかも把握していない。行政と関わっていく際にそうしたことを教えてくれる方が必要というか、どうしても経験がないと色々なことが分からず活動を躊躇してしまう。

【町長】

本当は、そのことについて関わった部署が繋いでくれればそれが一番良いと思うし、それを、あっちに行って（説明して）くれ、こっちに行ってくれとなるから負担になってしまうというのは分かるので

職員も反省する部分もあると思う。

ただ、理解して頂きたいのは、セクショナリズムは無くならないということ。それを全部取っ払うということはできないが対応は気を付けたいと思う。

【意見】

現在、総合計画に関する審議会というのがあるが、大枠の制度についてであり、実際の中身、例えば子育て支援センターの事業で日々どんなことをしているか等はテーマにならない。

細かいことにはなっていくが、やはり選択肢を出していくという意味では、地域の情報ということも、行政の出している情報と並列にアピールしたいなどいうのもあり、そうしたことを一緒に話し合える場が出来ないかなというのが話題に挙がっていた。

【町長】

総合計画審議会というのは、どちらかと言うと計画づくりだとかそうした大枠の話ばかりなので、具体的な事業の話はしないので、逆に、皆さんには、どういった組織をイメージしているのかを是非お聞きしたい。

こうした未来ミーティングを年間何回やっても良い。あとは、課長と話しているのは、実行計画といって、来年度以降3年間どういう政策事業をやるかというのを内部で検討するタイミングがある。

予算を作る時というのは、皆さんイメージは湧かないと思うが、最後は2月に発表して3月の議会で議決されるのだが、スタートは前の年の8月から。8月に各担当課が実行計画というのを作って、それを9月から審議してどんどん進めていく、政策的にOKだよというものを予算に反映していくという流れである。

【意見】

サークルや団体で計画などの細部を決めるのはちょっと難しい点もあると私は感じる。

【町長】

あとは段階のこともある。いきなり町長とやるの

が良いのか、担当課長からやった方が良いのかさまざままだと思う。ステップを踏んで行ったほうが良い場合もあると思う。町の内部の実行計画というのは全部そうしてステップを踏んでいる

【意見】

風の子めむろは、ボランティアで人が足りないという話しを聞いた。私たちも現状の把握はできている。スタート時点からこういう子ども達に関わっているネットワークの中で降って湧いたような話だったという経緯が実はあった。

やはり町の中に出来たものだから応援しよう、という気持ちはありながらも、中々その情報が共有しづらい、誰をどう通して情報を得ていけるかだとか、私たちが何を出来るかということはもどかしいところだと感じる。

次年度やその先町はどんな考えているのだろうとかその辺りも知りたいし、私は皆さんとの声をどう伝えていいか、どう解決できるかという手段が見えない所は結構なストレスを感じることもある。

【意見】

始まりの時点から、「あれ、私たちって情報提供してもらってるよね？」と思いながらも、その情報が事後報告というのを感じる。内部の事情など色々あると思うので全て欲しいとは言わないが、やはり風の子は地域の中でも重要な役割を占めるし、場所の問題などを色々言いたくても、私たちの方もどこに言えばいいのかということなど、端的に言えば「全体のモヤモヤ感」を私たちは抱えている。今日はそれを是非知って頂けたらなと思うところである。

質問だが、風の子めむろでプログラミング教室の募集があって、小学生のお子さんが行きたいとのことで、お母さん方が、家でこれだけメディアの使用を規制しているのに、果たして大丈夫なのだろうかと心配されている。町はこういった集まりの内容に関するチェックはしないのか？

【町長】

風の子の場所の問題などははっきりと相談を受け

ていて、今後どうしようかなというはある。はじめは空き家一つあれば良いというような規模であったが、現実には結構来られていて、あとは厨房と実際の遊び場が離れているから管理上の問題であるとか、そういうものの話は貰っている。

プログラミングの話に関しては、今初めて聞いた。

【意見】

風の子も、また色々と地域と連携を取りたいと聞いていたので、もし良かったら風の子の意見も聞きたい。

【意見】

風の子に登録している子ども達が80数名。その中で地域づくりはやはり貧困対策に関わってくるので町の色々な課とも連携を深めたいと考えている。

例えば、子育て支援課、社会教育課、学校教育課。というのは、色々な子ども達がいるということ。学校生活に馴染めない子、すぐに怒ってしまったり集中するのが難しい子、貧困や虐待等が深刻な子、発達障害を抱えた子、さまざまな子とこの1年会った。また、学校とはまた違う雰囲気の中での子ども達の一面を学ぶため、学校の先生が見に来ることもあった。

不登校のお子さんでも、ずっと来てくれる子がいる。学校以外の場でも居場所があり、学校以外で交流できる場があるというのは、お子さん当人の今後の成長にとっても大きな影響を与えると思う。それから、同じ学校の上級生とも自然の中で上手く交流が出来る場ということで、そういう意味では良い場所になっているかなと感じる。子ども達がこうした場で、少しでも気持ちが安定して自信を深めていく欲しいなという想いがある。

【意見】

今のような話を中々皆さん聞く機会が無いということを感じる。おそらく地域としては、すごくその場を支えたいなという想いはあるが、中々どう関わったら良いのか、一応げんきの会というのがそうした場になるのかどうかと思いながらも多分探し探り

の1年だったと思う。

【意見】

ボランティア、関わる人が多ければ一番良いが、中々現実には難しい。場所もお金もかかる問題であるし、そうそう贅沢なことも言えないと理解している。

ただ、やはり時期的に人手不足になることはあるし、もしボランティアが見つかれば一番良いが、とりあえずはそうして工夫しながら活動していくことを考えている。活動形態が違うということで、中々足並みが揃わないことはあると思うが、実態を知って頂きたい。

【意見】

確かにそうしたことを知る機会も中々なかつたりするし、やはり風の子の事業は町の事業でもあるという気持ちがあるので、そうした意味からも知りたいというか、否定はしないが、本当にそれが茅室町の子どもにとって良いことなのかということを知りたいという想いはある。

というのも、片方でまた違うことを積み上げて来た、今までの人形劇だとかスマホのルールだとかの積み上げもあつたりするので、何となくそこのすり合わせやプラスの情報を知ることができる、情報の連携ができるような所があると、不安も無くなるのではないかと思う。

やはり、見えない、知らないが故に不安を抱きがちだというのはどうしても出てくるので。

そういうことも公に話が出来るような場、今のように未確定の時点で話を聞ける場というのは必要だと感じた。

【意見】

まずこここのメンバーの中での連携ということも一つありながら、行政と連携していく手立てという所も一応今提案があったので、それについては、今日は時間が迫って来ているので、どんな形として今後行政の事業と地域というのが協働していくのかということの話し合いの場を設けたらどうかと思って

いるが、いかがか。

【町長】

この2枚目の実施要領を見て行くと、今言われたようなことは、年2回と記載している。

実施事業の中ではその意見交換の中でも、それぞれの団体だとかそういうものの課題や情報共有と書いてもある。

これは以前からあるのだろうし、今皆さんがしっかり見るという機会も少ないとと思うが、改めて見てみるとそういう所を話し合う場でもあるから、皆さん団体同士の情報共有も良いと思うし、役場からの情報提供、その時に先程仰ったように、例えば今回の風の子めむろの情報が足りないというのであれば、年2回でなくとも集まって頂いて説明するという機会があつても良かったのかなと思う。

今見直してみると、これをもう1回きっちりやるということプラス、子育て支援課となっているが、私が来ればめむろ未来ミーティングとして行っても良いわけだし、そうした柔軟な動きのほうが、情報共有・提供に良いのかなという気がする。

【意見】

相互の意見交換と情報共有とあるが、こちらとしては、意見を反映して頂いていることにあまり確信が持てないというか、ただ意見交換をして終わり、となつたらあまり意味がないなと思っている。意見を反映してほしい。

【町長】

先程言ったタイミングであれば、お金のことがもし絡んだとしても、対応できるタイミングというのが今よりも以前だったら大丈夫なので、という部分もある。そういう意味で上手く活用して頂けたらなと私は思う。

しかし、それぞれの団体ともやっても良いわけだと思うので、そうしたものも使って頂けたらなと考えている。

【意見】

時間も迫って来たということで、本日の話のまとめをさせて頂く。

最初に子育て支援についてという話の中で、親の繋がりが減ってきてているということ、その中でどういったサポートしていくかという話、そしてアンケートの話題も出て、個々のサポートはしっかりと行ながらも、「昔がえり」という町長の言葉もあり、地域とつながっていくこと、「協働」ということに対し今後どういったことが出来るかを考えながら、大切にしていきたいという話。

次に、子どもの課外活動に関して。少年団活動ということが低年齢化している・割合が増えているという所が共有できたと思う。地域でもバランスがとっているように何かしら工夫が出来るのかな、という話。

最後に今後子どもに関することで、どのような制度や場づくりが出来るのかという課題。子どもに関する事を何かしようと思ったら窓口は子育て支援課ということが一つ分かった。

最後色々と話もあったが、風の子のことも含め、色々なことをこれから話していく場ということ、これはまた是非話を作る場を設けて、次に繋がっていけたらなと思っています。ありがとうございました。

12:05 終了

【ミーティングの様子】

